

政治は今

④

— 総選挙から二年 —

地盤固めへ、根本氏

今月上旬の週末、県立安高高校のOBたちが喪服で参列した恩師の「お別れの会」に、東京から駆けつけた二区選出の代議士・根本匠氏の姿があった。

大栗田・郡山の人脉を下水路のように結ぶ安高同窓のネットワーク。遺影の前で現役生徒が校歌を歌う異例の葬儀で、先輩たちに次いで一番最後に根本氏が「お別れの言葉」を述べた。「真摯(しんし)に政治に取り組み、真つすく歩め、王道を行け、その先生のご指導にたえるよう全力で頑張ります」。涙で言葉がとぎれる姿をモニターが映し出す。

● 保守本流

自民を中心とした二区の保守本流を自任する根本

「政治の閉塞(へいそく)感というが、それは野党への閉塞感。自民には理念や政策がある」と自信満々、「選挙区唯一の代議士」として駆けぬぐる。

● 10万票の壁

週末の選挙区での日程はハードだ。郡山の秋祭りでは三十二万所の町内のテントを回った。農村部では後援会組織の発足が続き、農繁期の米集荷場や、地区

新進党の混乱横目に

「安高ネット」生かしつつ

のこのころ播磨(はりま)気配は見えない。昨年総選挙で新進党の増子輝彦氏と接戦を演じはしたが、増子氏の雪辱戦の様相さえあつた市長選には藤森氏を支えて圧勝。県連会長・坂本剛二代議士の自民

の運動会、敬老会、小学校の発表会に予告なく現れ、公的な行事の合間を縫って結婚式や葬儀にも出席する。

な選挙区を守るというのは大変なこと。本人は東京、地元を含めてほとんど休みなしです。」「農村部の後援会では米問題が話題の中心」と、日曜の夜、中華料理店で厚い資料を前に農協青年部の若者たちと米価安定策について勉強会を開

一方、選挙時に掲げた数々の公約。その中でも特に目立った二本松新幹線駅「実現」については、「やつていきますよ」というが、具体的な動きにはなっていないようだ。秘書の一人は「まあまあ、あれは……」

「まあまあ、あれは……」と、あいまいな笑みを浮かべる。

一方、経済界には「落選議員には官償は薄情。根本さんに色々頼まねばならず、五五年体制の自民党時代に逆戻りしたようですよ」との指摘も。

● 「独壇場」

こうした「独壇場」ともいえる根本氏の陰で混迷を深めているのが、もともと政権交代可能な「天大政論」を掲げて小選挙区制度を進めた新進党勢力だ。増子氏は会合を重ねながら祝電や弔電をいまでも打ち続けるが、支持者の中には来年度の参院選を念頭に、「とにかく、バッジをつけて欲しい」という声が高まる。

「政治家の努力の差が非常に強く出る制度だ。仕事をするために勉強し、それが力になり、どんどん得意な分野が広がっていく。伸びる政治家は伸びる。が、それは本人の努力次第」

● 逆戻り

同市で女性紙を発行し、知事ブレインの一人ともされる三田公美子さんは「小選挙区は人と人との競争を拡大しただけ。市民は義理と人情で行き掛かりで応援し、自民でも新進でもなかった。結局、万人の声を聞く有能なコンビエンス型の政治家を結果として生み出す」と語る。



日曜の夜、農協青年部の若者たちと熱心に「米価安定策」で勉強会を開く根本氏＝郡山市内の中華料理店で

区の壁は破れない」と改めて危機感を募らせる。